

表現したくなる子どもたちの具現に向けた新聞の活用

指定校2年次 南箕輪村立南箕輪小学校 鈴木義和

(1) 本年度のN I E活動の概要

本校の全校研究テーマは「自分を表現したくなる子どもたち」である。その具現に向け、4つの部会を立ち上げて各々がテーマをもって取り組んでいる。

研究指定校2年目ということで、昨年度のN I E活動から見えてきた成果や課題を踏まえたうえで、年度初めに部会の中で本年度の研究の方向性を決めていった。本年度は、昨年度の課題でもあった「子どもたちの新聞（活字）離れ」を少しでも解消するべく、子どもたちが新聞や新聞記事に触れる機会を増やしていきたい。また、本校の研究テーマでもある「表現したくなる子ども」に寄せて、「新聞を通して思いや考えを表現できるような力を育てる」ことを目標として、新聞に触れ、新聞の特徴を活用しながら、新聞を使って表現したくなる子どもたちによせていけるよう研究を進めた。子どもたちが直に新聞（活字）に触れることで、読む力や伝える力、自分の考えを持つ力を伸ばしていく活動を行った。

(2) 本年度のN I E活動をはじめる前の状況

〈4月時点の児童数・学級数〉

- ・全校児童数751名、32学級（内特別支援学級9）

〈本年度のN I E活動をはじめる前の状況〉

昨年度の調査や研究、これまでの子どもたちの様子から、本校の子どもたちは新聞に触れる機会がとても少なく、新聞の読み方すら分からない子どもたちが多くいることが分かった。記事の中で段が変わったらどこに文章の続きが書いてあるのかも分からず、新聞記事が何を伝えようとしているかを読みとることのできない児童の姿がとても多くあった。特に低学年ではこのことが顕著に表れていて、新聞を使った学習を進める中で、次はどこを読めばいいのか分からずに、「この後はどこを読めばいいの?」と質問にくる子どもたちが多数見られた。様々な物が紙媒体からデジタル化されていて、新聞を取っていない家庭が増えている。テレビやインターネットから情報を得ている家庭が多く、大前提として新聞を読むことができない子がとても多くいる現状があった。

〈N I E活動の研究学級の実態〉

研究学級：3年2組 31名

3年2組の子どもたちは、総合的な学習の時間において、「なにかクラスのみんなと思い出に残ることがしたい」という子どもたちの願いから、村が開催するお祭りの中で販売活動をしようと計画をしてきた。多くの人に自分たちの商品を買ってもらいたいと願っている子どもたちは、販売活動を終えて自分たちの活動をふり返ったときに、「さらに多くのお客さんに自分たちの活動を知ってもらうためにどうすればいいのか」という問いをもつこととなった。そこで、実際の新聞から気になる見出しを探したり、短いが端的に内容を伝えられる言葉に着目したりして、多くの人に自分たちの考えが伝わる言葉を取り入れたチラシ作りの活動を行った。相手に思いを伝えられる短い言葉を考えたり探したりしていく活動を通して、新聞を構成している言葉や文章を読み解くきっかけとし、その言葉の力を使って自分の思いや考

えを表現できる力をつけられる活動を考えた。

〈先生方の新聞活用の状況〉

毎日職員室の大机にはその日の新聞が置かれている。朝や休み時間などの手の空いているときに一面を眺めたり地域の記事を読んだりする先生方が多い。その中で、気になる記事があればコピーをして職員室に掲示し積極的に紹介・共有を促すように努力してくださる先生もいる。また、テレビやネットでは紹介されないような身近な地域の記事から、子どもたちに記事の内容を紹介して総合的な学習の時間の活動につなげた先生もいた。図書館の時間には、司書の先生が小学生新聞の記事を紹介して、世の中の出来事に目を向けるためのきっかけづくりをしてくださった。

(3) N I E 活動の狙い（育てたい力）

- ・自分の思いや考えを持ったり様々な言葉で表現できたりする力を育てる。
- ・語彙を増やすことで、読み取る力や伝える力を育てる。
- ・様々な情報や世の中の出来事を知ることで、興味や関心の幅を広げる。

(4) 公開授業以外のN I Eの取り組みの状況

- ・先生方が子どもたちに紹介したい新聞記事を、図書館にコーナーを作って掲示物として貼り出した。
- ・新聞を広げ、知っている言葉を探したり載っている写真から知っている有名人を探したりして、どんな言葉や人を見つけたか紹介しあう活動を行った。
- ・読書の時間に子どもたちに小学生新聞を配布し、新聞に触れる時間を作った。
- ・新聞記事に載っている知らない言葉を辞書で調べ、自分や相手がわかりやすいような言葉に置き換える授業を行った。
- ・毎日8社届く新聞を昇降口に一斉に並べたことで、新聞を自由に手に取って読んだり各新聞の一面の違いに着目できたりした。
- ・低学年廊下に、小学生新聞の記事で子どもたちが興味のあるような記事を切り抜いて掲示してきた。
- ・シンマイ EGG を活用し、社会見学や理科の学習のまとめとして新聞作りをした。

(5) 公開授業などの活動内容

3年2組 総合的な学習の時間 授業者：小野綾乃

単元名 「思い出ナンバー1ストアを成功させよう ～魅力的なチラシを作って～」

〈単元設定の理由〉

3年2組の子どもたちは来年度のトレジャータイムも見据えて2年計画で考え、来年度のためにお金を稼ぐことを目標にした。せっかくお金を稼ぐのであれば、楽しく稼ぎたいと考えた子どもたちは自分たちのお店を出店することにした。実際に大芝高原で行われたマルシェに出店してみて、活動を振り返ると売り上げは想定以上だったのだが、身内の集客が多かったことに気づいた。そこで、売り上げたお金を使ってもう一度お店を出し、身内以外の集客を多くしたいという新たな目標を立てた。本単元ではそこに向け、一番の宣伝手段だと考

えるチラシの改良を行う。子どもたちにはこの単元を通して、「誰に」伝えたいのか相手意識を持ち、自分たちの伝えたいことを分かりやすくまとめられる力をつけてほしい。そして、本校の研究テーマである「表現したくなる子どもたち」に近づく第一歩として、自分たちの言葉で届けるチラシを作ってほしいと願っている。

〈単元計画〉

- 第1時 出展当日のことを振り返り、もう一度お店を出すために必要なことは何かを考える。
- 第2時 チラシの改善に焦点を当て、どんな要素が必要か考える。
- 第3時 新聞やチラシから自分たちのチラシにも必要なキャッチコピーを探しヒントを得る。
- 第4時 改善したいところを踏まえてチラシを作る。(本時)
- 第5時 お互いのグループのチラシを見て、意見を出し合う。
- 第6時 チラシを完成させる。

〈主眼〉

来年度のトレジャータイムを見通してお金を稼ぎたいと考え、実際に大芝キッズマルシェにて手作りのキーホルダー等を販売した子どもたちが、新聞やチラシにある見出しの工夫を見つける活動を通して、その工夫を自分たちのチラシに取り入れながら、更なる集客に向けて自分たちの活動を宣伝するためのチラシを作ることができる。

〈指導上の留意点〉

- ・チラシや新聞を用意しておき、常にヒントを得られるようにしておく。
- ・手が進まない場合にはそれぞれのグループの商品のよさを伝え、アドバイスをする。

学習活動	予想される児童の反応	指導・支援, 評価	時
1. 以前自分たちで作ったチラシを掲示し、どんなところが改善ポイントであったか確認する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・大事なところの文字の色を変える。 ・目立たせたいところを大きくする。 ・自分たちの気持ちも入れる。 ・自分たちの活動に合った写真を入れる。 ・一目で目に付く言葉を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出店後の振り返りの中で出てきた改善できるところを確認する。 ・子どもたちの意見を板書し、グループごとの活動の際にどこを改善すればいいのか思い出せるようにしておく。 	5
2. 今日のゴールはどこにするかを決める。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・メインの言葉は絶対入れたい。 ・写真の工夫はしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のゴールを見通しながらめあてを決める。 	5
めあて：新聞の見出しのような言葉を取り入れて、パッと目につくチラシを作ろう！			

3. 自分たちの作ったチラシを改善する。(グループごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇を作ったときのことを思い出して、それが伝わるようにしよう。 ・商品だけではなくて、作っている風景の写真も入れてみよう。 ・こういう見出しの言葉がよかったから自分たちも使ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作った時に大変だったことや感じたことを思い出せるように声をかける。 ・そのグループらしさが出るチラシとは何かを一緒に考える。 	20
4. グループごとに前回のチラシから改善したことを発表する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・この言葉がわかりやすくていいね。 ・〇〇グループのよさが伝わるな。 ・自分たちもこの部分を取り入れてみたい。 		10
5. めあての振り返りをする。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・一目で目に入るチラシになった。 ・自分たちらしい言葉を入れられた。 	<p>評価</p> <p>マルシェ出店時に出したチラシを改善し、その変化させたところを自分たちの言葉で説明することができる。</p>	5

・児童の反応

今回の研究授業は、子どもたちが活動をしていく中から生まれた「多くの人に自分たちの商品を知ってほしい」という思いを中心として進めていった活動である。まず短い言葉で物事を伝えられる「見出し」に着目した。そこだけを見て端的に内容がわかる言葉について考えた子どもたちは、自分たちの活動を広めるために短い言葉の大切さを理解することとなった。そして、新聞には欠かすことのできない企業などのチラシにも着目し、自分たちの思いや考えを正確に伝えていくために、言葉の意味をどう表現していくかを子どもたちは考えていった。

自分たちの活動から生まれた問題であったため、子どもたちは進んで活動に取り組む姿があった。自分事としてとても身近な問題だったからこそ前向きに取り組む活動となることができた。また、言葉の意味を辞書で調べ、自分たちの思いにぴったり合う言葉に変えようと考えている子どもたちの姿も見られた。インパクトのある言葉や引きつけられる言葉などの意味を吟味し、伝わりにくく変だと感じた言葉は別の言葉に言い換えようとしていた。これは、自分たちの思いを伝えるために、読み手となる相手のことを意識してのことである。思いを伝えるために、他者を意識する子どもたちの姿があった。個人で追究したり友だち同士話し合ったりしていく中で、よりよいものへ作り変えていこうと表現していく子どもたちの姿が見られることとなった。タブレットを操作しながらの活動でもあり、やるが多かったため、研究授業の中では最後まで作り上げられなかった子もいたが、クラス全体で自分たちの活動を成功させようと意欲的に活動していく子どもたちの姿が多くみられる授業となった。

(6) 1年間取り組んだ成果

(2年間の研究で見えてきたこと) 表現したくなる子どもたちに繋げていくために

・実際の物に触れる機会を増やすことによる意識の変化

昇降口での新聞掲示の効果はとても高かった。新聞に触れる機会のない子どもたちが多く、誰もが手に取りやすい場所に並べておいておくことで、気楽にながめたり手に取ったりすることができた。難しい言葉は分からなくても、見出しや写真・絵などからどのような情報で何を伝えたいのかを感じ取っている子がいた。

また、複数の新聞社の記事を比較できたことで、いま話題になっていることに気がついたり見出しの違いに注目したりできた。

・能力や発達段階に応じた教材

新聞の段が変わった際に次にどこを読むのか分からない子どもたちには、新聞を読むことは簡単なことではない。そこで、「見出し」のような短い言葉に着目させるように意識をつけていった。長い文章を読みとるのではなく、まずは内容を端的に表している見出しから出来事を理解していけるような活動をすることで、少しずつ見出しから内容を考えられる力がついていったように思う。

また子ども新聞の掲示板では、多くの子どもが足を止めて読んでいる姿が見られた。ルビが振ってあり、内容も子どもたちの興味を引く発達段階に合った新聞を意欲的に読んでいる子どもたちの姿があった。

・自分事の学習問題

3年2組の研究授業では、自分たちの活動である「思い出ナンバー1ストア」を成功させたいという所が出発点となっている。自分たちが主役となり、自分たち自身で動いていかなければならない学習問題に対して、子どもたちは積極的に取り組んでいた。どこか遠いところで起きている事ではなく、自分に近いところで起きている問題こそ、子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいくことができる。

・進んで考えたいくなる、取り組みたいくなるような教材

シンマイ EGG を活用することで子どもたちが整った新聞作りをすることができた。テンプレートがあるため、作りやすく、3年生でも休み時間に意欲的に取り組んでいた。高学年では、どのように文をまとめていけばより読みやすくなるのかと、レイアウトについていつも以上に注意深く考えている姿があった。

・友だちに報告したくなる環境や関係性 (考えを伝え合える学級経営)

新聞に載っている自分が知っている有名人の写真や、自分で読みとって理解した新しい発見や情報を、友だちに伝え合っている姿が多く見られた。隣同士で普段から考え合ったり話し合ったりすることができる学級では、誰とでも活発に思いを伝え合うことができていた。思ったことや感じたことを素直に表現するために、学級の環境を整えることも大切である。

